

コラムを読み解く(中学・国語)

()中学校()年()組 氏名()

南風録

わが母の話だが、数年前に車を運転中、信号待ちで停止しているところを後続車に軽く追突された。後遺症らしいものも残らずに済んだのは幸いだった▼80歳を過ぎ、免許返納を本人も考え始めていた。災難当日は誕生日。「神仏のお計らいかも。加害者になる前に」と、きっぱり運転をやめることに。受け取った保険金は交通遺児に役立ててもらおうと、一部をあしなが育英会に贈った▼寄付すると「あしながさん」と呼ばれるらしい。米国人作家の小説「あしながおじさん」から着想した取り組みは、半世紀にわたって続く。設立者の玉井義臣さんが90歳で亡くなった▼1963年、28歳の時に母親が暴走車にはねられ、犠牲になったのが原点だった。世は「戦争」と形容されるほど事故死者が多かった時代。被害者の救済問題を世に問おうと交通評論家としてまず活動を始めた。69年に交通遺児支援の団体を立ち上げる▼その後、対象は災害、病気、自死の遺児にも広がった。玉井さんが主導した募金額は1100億円以上、高校・大学等に進学した遺児は11万人余りに上るといふ。エイズで親を亡くしたウガンダの子どもの教育にも力を注いだ▼新型コロナ禍で職を失い、家計が悪化する家庭も多かった。「弱者は生きていてはだめなのか」と、もれる言葉に心を痛めていた。その遺志は市井のあしながさんたちに受け継がれる。

2025年7月8日付1面

【問1】「あしながさん」とは何ですか。

(あしなが育英会に寄付をした方の呼び名。)

【問2】「あしなが育英会」の設立者は誰ですか。

(玉井義臣さん)

【問3】「あしなが育英会」設立の原点は何でしたか。

(1963年、玉井さんが28歳の時に母親が暴走車にはねられ、犠牲になったこと。)

【問4】玉井さんが交通遺児支援団体を立ち上げたのは何年ですか。また支援対象はその後、どうになりましたか。

(1969) 年

(災害、病気、自死の遺児にも広がった。)

【問5】「弱者は生きていてはだめなのか」という言葉に対する、あなたの考えを書きましょう。

* 習っていない漢字とむずかしい言葉の解説 淡(あわ)い

追突(つい・とつ) 後遺症(こう・い・しょう) = 治療後も症状が残ること。

免許返納(めん・きょ・へん・のう) = 運転をやめて、免許を返すこと。

災難当日(さい・なん・とう・じつ)

神仏(しん・ぶつ)のお計(はか)らい = 神と仏がいいようにすること。

加害者(か・がいのしゃ) = 害を加える人。加えられる側が被害(ひがいの)者。

交通遺児(こう・つう・い・じ) = 親を交通事故で亡くした子ども。

玉井義臣(たまゐ・よし・おみ)

暴走車(ぼう・そう・しゃ) 犠牲(ぎ・せい) 救済(きゅう・さい) 支援(し・えん) 主導(しゅ・どう) = 中心となり、導(みちび)くこと。

募金(ぼ・きん) = 多くの人から

寄付(き・ふ)を集めること。

新型コロナ禍(か) = 新型コロナの感染、流行。 遺志(い・し) = 死んだ人が生きていたとき持っていた望み。

市井(し・せい) = 人家が集まっている所。まち。ちまた。

受(う)け継(つ)がれる

